

## 編集部への手紙

### 血友病患者の心理学的側面と適応能に関する症例–対照研究

#### A case-control study on the psychological aspects and coping in haemophilic patients

D. Posthouwer, E. P. Mauser-Bunschoten and K. Fischer

Van Creveldkliniek, University Medical Center, Utrecht, The Netherlands

最近 *Haemophilia* に掲載された Canclini らの研究では血友病患者の様々な心理学的側面が評価された<sup>(1)</sup>。この研究の目的は、血友病患者と一般健康者をこれらの心理学的側面から比較するとともに、各側面間の相関を調べることであった。我々は、この論文を興味深く読んだが、研究方法と結果についていくつかの疑問をもった。

まず、Table 1 と Table 2 に両群の対象背景が示された。本文において両群の年齢、社会経済的階層、学歴が一致したと述べられているが、例えば、年齢については差があるように思われた（症例群の82%が40歳未満であったのに対して、対照群では65%が40歳未満であった。さらに、症例群の14%が40～59歳であったのに対し、対照群では33%が40～59歳であった）。この事実は、結果に少なからぬ影響を及ぼしている可能性があるが、特に言及されなかった。

第二に、著者らはいくつか問題となる因子の相関を評価しているが、他の重要な因子となり得る心理学的側面 [特に、血友病重症度、C型肝炎ウイルス (HCV) やヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染および

両者の重複感染]<sup>(2)</sup>に関する情報について何も提示されていない。さらには、どのような患者が選択されたのか（これは研究のベースとなる事項である）に関するデータがなく、症例群と対照群の選択基準および除外基準が記載されていない。さらに、試験結果の絶対値が示されていないため、この研究での知見を他の血友病患者集団に当てはめることができない。

今後著者らがこれらの欠如したデータを提示できれば、より良好に結果を解釈でき、今後著者らの知見を他の患者群にも適用できる。我々は、これを切に望むものである。

#### References

- 1 Canclini M, Saviolo-Negrin N, Zanon E, Bertolotti R, Girolami A, Pagnan A. Psychological aspects and coping in haemophilic patients: a case-control study. *Haemophilia* 2003; **9**: 619–24.
- 2 Trippoli S, Vaiani M, Linari S, Longo G, Morfini M, Messori A. Multivariate analysis of factors influencing quality of life and utility in patients with haemophilia. *Haematologica* 2001; **86**: 722–8.

---

Correspondence: Dirk Posthouwer, Van Creveldkliniek, Heidelberglaan 100, C 01 425, 3508 GA, Utrecht, The Netherlands. Tel.: +31 30 250 1709; fax: +31 30 250 5438; e-mail: d.posthouwer@azu.nl.